

## 5章2節3 現代文(評論)「物語を発現する力」

酒井将平

教科:[ 国語 ] / 科目名:[ 現代文 ] / [ 2 ] 学年対象・[ 3 ] 単位	
出題する考査	[ 2 ] 学期 [ 期末 ] 考査
該当する单元等	評論『物語を発現する力』(佐藤雅彦)
出題意図 (レベル)	問一:読み取ったことを異なる文脈に当てはめる。(C) 問二:読み取ったことに対する批判的な検討。(C) 問三:読み取ったことを活かして創造する。(E)
<p>本文は割愛します。</p> <p>「物語を発現する力」とは、一見不可解な出来事群をつなぎ合わせて、納得できる筋道を与えることで、断片的な情報群を一件落着させ、ある種の満足感さえ生み出す力である。</p> <p>次の会話は、「物語を発現する力」についてのものです。会話文を読んで後の問いに答えよ。</p> <p>A:この力が発揮される場面ってどんなのがあるんだろう。 B:漫画を読むときなんかはどう? C:ばらばらなコマからストーリーを読み取るっていうのは近いかもしれない。 B:一コマ一コマが「断片」で、そこからストーリー、つまり「物語」を読み取り、「ある種の満足感」みたいなものとして笑ったり泣いたりするってことね。 A:それなら<u>刑事の仕事</u>も近いかも。 B:確かに。この力が欠かせない仕事ね。 C:なるほど。じゃあ「輪廻思想」なんかはどう? A:古典の源氏物語で出てきたやつ? C:光源氏の苦しみは、前世での因縁のせいかもってところ。 B:よく考えると不思議な考え方だね。 C:インドの身分が低い人達の中から生まれた考え方なんだって。 B:なんで、そんなことを考えたんだろう。 C:現世の苦しみを乗り越えるために生まれた考えた方がいいよ。 A:前世、現世、来世をつなげて考えることで、物語を作り上げたってこと? C:そういうこと。 B:でも、<input type="text"/>。それってしんどくならない? C:確かに。昔の人達もそう考えて、「物語」の終わりを考えたのかもしれない。 B:「物語」の終わりって? C:輪廻の連続という「物語」から抜け出すこと。「解脱」っていうらしいよ。 A:なんか、中島敦の『山月記』を思い出した。 C:三学期に読むって先生が読んでたやつ? B:先に読んじゃったの? A:面白いから楽しみにしといて!</p>	

問一、下線部「刑事の仕事」とあるが、次の表は「物語を発現する力」という考え方からいくつかの仕事をつめたものである。空欄に入る語句を答えよ。

仕事	断片	物語	満足感のようなもの
刑事	①	犯人の動機や行動	事件が解決することに対する期待感
	②	記事	③

問二、本文中の空欄に入るセリフを前後の文脈から考えよ。

問三、読み手の「物語を発現する力」を活かして4コマ漫画を考えよ。セリフは用いないこと。タイトルをつけること。

採点基準 (配点)	<p>問一（各2点）：</p> <p>①証拠、証言 ②記者 ③大事なことを世間に伝えることができる達成感 *同じような内容、整合性のある内容なら正解とする。</p> <p>問二（3点）：</p> <p>来世を気にして、現世を生きることが永遠に続いていくってことだよ ね *前後の文脈に続くような答えであるなら正解とする。</p> <p>問三（3点）</p> <p>*コマに非連続性があること、タイトルとの整合性があることを正解の条件とする。</p>
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・佐藤雅彦（2011）『物語を発現する力』「考えの整頓」暮らしの手帖社,p.45-55</li> <li>・実際の試験は縦書きである。</li> <li>・授業では、本文から読み取った考え方を別の文脈に当てはめて、その汎用性や限界を検討するという取り組みを行った。</li> <li>・問三は、実際の試験問題として出題することはできなかった。代わりに授業で出題したところ、個性豊かな作品ができあがり楽しかった。試験問題として出題することも可能であったのではないかと考えている。</li> </ul>